令和6年度　小谷村立小谷中学校経営ビジョン

（１）　学校教育目標（建学の精神）　「 日々新たなるべし　志を立てよ　美しくあれ 」

昭和63年に小谷中学校創立10周年を迎えたとき、当時の田中欣一校長が、草創期の精神に立ち返り「内なる充実」を目指して学校教育目標を改めて以降、本校の学校教育目標（建学の精神）として36年間受け継がれてきた。

日々新たなるべし	志を立てよ	美しくあれ
毎日、新鮮な目で、新鮮な心で 素直な気持ちで、自らに問う リズムと規律ある日々を	夢や願いをもつ 素直な心と向上心をもつ 自ら行動する	ひたむきに打ち込む 品位ある言葉と行動 相手理解を深め、思いやる

（２）　目指す生徒の姿「 ともに学び、夢を拓くひと 」と 教育理念 「 Ｃｈａｌｌｅｎｇｅする学校 」

AI（人工知能）の進化による「Society5.0」時代が到来するなか、人口減少化社会、地球温暖化による気象災害の多発、国際情勢の不安定化等から、将来の予測が困難な「VUCA（ブーカ）」時代においても、個人と社会のWellbeingを目指して、逞しく生きる生徒の育成が希求されています。

また、混沌とする社会変化を反映した現在の学習指導要領では、新しい時代に求められる資質・能力として、読み・書き・計算等の従前の学力である「認知能力」の他に、物事に対する考え方、取り組む姿勢や行動等、日常生活・社会活動において重要な影響を及ぼす「非認知能力」を盛り込み、「知識及び技能」（認知能力）、「思考力、判断力、表現力等」（認知能力・非認知能力）、「学びに向かう力・人間性等」（非認知能力）の３つの柱を明示しています。

一方、小谷村では保小中一貫型教育を推進するなか、令和３年度末に12年間の保育・教育を通して目指す生徒の姿として、「ともに学び、夢を拓くひと」と定めました。これは、全国学調生徒質問紙において、「自己肯定感（自分には良い所がある）」「チャレンジ精神（難しいことでも失敗を怖れずに挑戦する）」「キャリアビジョン（将来の夢や目標をもっている）」の項目が県や全国平均に比べて肯定的な回答率が有意に低く、児童・生徒の学びを支える、いわゆる「学びに向かう力」の育成を最重要と捉え、「認知能力」と「非認知能力」の一体的な育成を目指したからに他なりません。

そこで、本校では一昨年度より教育理念を「Challengeする学校」に据えて、「前例踏襲ではなく自分の頭で考える」、「まずは自分でやってみるが認められ、仲間も精一杯応援する」、「トライ＆エラーの繰り返しが自己成長へとつながる（実感できる）」等、Challengeしたくなる気概・土壌を大切にするとともに、個々に達成感や成就感が味わえる機会を意図的に設けることによって、生徒の「自己肯定感」の育成を図ってきました。

その結果、教科学習では「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る「単元内自由進度学習」や「ジグソー学習」等の取り組みや、生徒会活動では「総合発表会における地域交流学習」を新設したりする等、生徒の主体性を第一とした教育活動が多くなり、全国学調生徒質問紙でも、自己肯定感に関わる様々な項目で県や全国平均を上回ることができました。

しかし、個々の生徒を見ると、「自分と向き合う力（自制心、忍耐力、回復力）」、「自分を高める力（意欲・向上心、自信・自尊感情、楽観性）」、「他者とつながる力（共感性、協調性、コミュニケーション能力）」のいずれかに課題を抱えており、それらを踏まえ、本年度も継続（3年目）して「Challengeする学校」を教育理念に据えます。

特に、本年度は生徒一人ひとりの考えや行動のベースとなる価値観を深く捉え直すとともに、複数の教師が情報共有しながら、生徒にその価値観と行動に齟齬があれば改善点を示唆したり、教師自身がモデルとなって示範したりすることで、よい行動が習慣づくよう努めてまいります。また、個々の生徒の目標設定の具体化や、「これは適切な方法なのか？」メタ認知を働かせるような支援をしたり、教師におけるメンタリングやコーチングを丁寧に行ったり、教師や仲間からの積極的なフィードバックを通して自己成長につながる内省力を高めたりすることで、「ともに学び、夢を拓くひと」の具現化を目指してまいります。

（３）　めざす学校像　「 授業を軸に、共に高め合う関係性を創り出す学校 」

学校の役割は、生徒が自分の良さや可能性を認識するとともに、他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手を担うことにあり、教師は、授業を通してその資質・能力を育成しなければならないと考えます。

「授業を軸に、共に高め合う関係性を創り出す」本校は、「聴く」「問う」からはじまる対話活動を基盤として、課題について少人数で互恵的に語り合う「協働の学び」を手がかりに、生徒の探究心に火を灯します。

また、社会に希求される学力（資質・能力）観が、「知的基盤社会（知識・技能を重視する社会）」から「自らの力で社会を変革していく作り手となる社会（イノベーション力を重視する社会）」へとパラダイムチェンジしていることを受け止め、全ての子どもたちの可能性を引き出す「令和の日本型教育」を目指して、教師自身が生徒と同様に「途上にある者」として、また、「共に学ぶ者」「共同探究者」、日々の授業改善にChallengeしていきます。

小谷中学校長　出口　哲朗